文芸

俳句

町道を真中において稲の花　伊藤　敬子

送り火や橋の袂に仄明り　今関満喜子

忘れ物空気が抜けた浮輪かな　魚地　照子

梅干の種まで赤しにぎり飯　加瀬　俊昭

天仰ぎ球児涙で夏終る　川島　通則

七夕の葉ずれ誘ふや願ひごと　向後　寛

溢れゐる癒しの湯浴み虫しぐれ　越川せつ子

波音や睡魔がさそふ夏屋敷　小松　藤男

鯵なます亡父自慢の跡を継ぐ　佐瀬　輝夫

ひぐらしの一声高き父母の墓　鈴木とし子

畑終えて残暑の道の風和し　土屋美枝子

かなかなの輪唱に入る夕の村　土屋　義昭

晴れつゞき虫干ししてゐる延命寺　戸村　静華

かなかなをうしろに児らは家路へと　西崎さち子

万緑に引っ掻き疵のやうな径　藤田　雅夫

短歌

心地よき穂波を渡る涼風の頬を撫で行く暑さ忘るる　越川　義則

彼岸花咲き終りたり秋ふかみ花は葉を知らず葉は花を見ず　高梨　キヨ

蝉しぐれ声ふり絞り高だかと杖つく我を励ます様に　内藤　くに

……

子が読みて置きありしままのダンテ作「新曲」読まむと挑戦の夏　田崎　尚美

猛暑日を穂の出始めし田の中に白鷺ぴょこんと首をのばしぬ　浅野　榮子

薩摩芋の蔓は伸びきて間もなしか土を探るに当たり無かりし　押尾　輝子

茶箪笥の奥に仕舞ひし物を取る手の届かずは背の縮みしか　鈴木まさ子

一本に咲く山百合の花数ふるに三十ありぬ五浦の丘に　水須　俊

日焼けせる中学生がラケットを荷台に乗せて自転車こぎゆく　加瀬　弘子

信州の佐久の夕焼けとどめたし青に茜の和紙をちぎりて　西山満里子

友よりの礼状とどく昼下がり氷からりんコーヒーいれる　椎名美枝子

御霊にて帰り来る夫思ひつつひとり門辺に迎へ火を焚く　芹川　初子

折紙に朝顔折りて飾りたり庭に咲かすが無理なる今は　斉藤つね子

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

10月　書星会横芝光町支部

11月　展示なし

◎文化会館ロビー展

10月　俳句会
　　生け花クラブ

11月　アートクレイクラフトクラブ

◎銚子商工信用組合展

10月　展示なし

11月　展示なし

町民ギャラリー

◎企画展　縄文土器　その造形と機能美
横芝光町出土の縄文土器に観る文様とかたちの歴史

町内には、姥山貝塚をはじめ多くの縄文時代の遺跡があります。

その遺跡から、これまでの発掘調査によって多数の縄文土器が出土しています。この縄文土器は、今から1万年前の縄文時代初めから2千年前の弥生時代に変わるまで、連綿と各時期に渡って存在し、これが一つの町から発掘されることは稀有な例です。

今回は、これらの縄文土器を時期に従って展示し、縄文土器の形と文様がどのように変化していったかを示し、縄文人の造形と機能美について探ります。

ぜひ、ご覧ください。

と　き　10月7日（土）～12月17日（日）
　　午前9時30分～午後5時30分

ところ　図書館2階町民ギャラリー

問社会文化課生涯学習班　☎84－1358